

政治研究結果報告書

—政治研究助成—

西暦 2023 年（令和 5 年）2 月 22 日

一般財団法人 櫻田 會
理事長 増田 勝彦 殿

研究者 中央大学法学部教授
青木 裕子

第 40 回（令和 3 年度）櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。

※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称（英語も記入） Research Theme

コモン・センス哲学あるいは「コモン・センス的リアリズム」と、アメリカにおけるプラグマティズムへの影響について

Scottish Common Sense Philosophy, or Common Sense Realism, and its influence to the American Pragmatism

※英文抄録（研究目的、経過、成果 250 words 以内） Abstract (Purpose, Process, Significance)

I would like to present two research results from 2022 research activity.

The first result appeared as Hiroko Aoki (2022) (*See below). The purpose of this research paper was to examine the Scottish Common Sense Philosophical School or, in the wider sense, the intellectual genealogy of “Common Sense Realism,” and its influence to the American Pragmatism. For this purpose, I examined the idea of common sense within Giambattista Vico (1668-1744) ’s thought and the role of the common sense in his rhetorics.

And the second result is coming soon as Aoki (2023) (*See below). The purpose of this research paper was to present how Adam Ferguson (1723-1816) , a common sense realism thinker, and his thought were introduced to Japan. For this purpose, I examined how a Japanese Marxist Hajime Kawakami (1879-1946) treated and introduced Ferguson’s idea of “unintended consequences” in his article written in 1922, and compared it with Friedrich August von Hayek (1899-1992)’s idea of the “spontaneous order” which can be seen as strongly influenced by Ferguson.

※研究の目的・研究方法・意義（和文 600 字以内）

本研究の目的は、スコットランド啓蒙において一つの学派を成したコモン・センス哲学派、あるいはより広義にその前後に連なる「コモン・センス的リアリズム」と言える思想の系譜と、アメリカのプラグマティズム思想の関係性について検討することにある。この研究テーマを選んだ理由は、今日において世界におけるあらゆる分野で重要なプレゼンスを占める「アメリカ」を理解しようとするときに、アメリカにおけるリベラル・デモクラシーの発展のバックボーンを成してきた哲学として「プラグマティズム」に着目したからであり、また、そのプラグマティズムに哲学的に影響を与えたのはコモン・センス哲学という仮説を立ててそれを検証しようと考えているからである。研究方法としては、思想史のアプローチから文献調査を中心に進めたい。すなわち、アメリカのプラグマティズムを代表する思想家たちおよびコモン・センス哲学派を代表する思想家たちの文献および二次文献を吟味し、両者の親和性や影響関係を探るといふ文献調査を中心とした研究方法によって研究を進めていきたい。このテーマで研究を行うことの意義として挙げられるのは、先行研究が少ないため、思想史の分野に新たな貢献をし得るということである。即ち、スコットランド啓蒙思想が建国初期アメリカに与えた影響についての先行研究は数多く存在しているが、コモン・センス哲学とプラグマティズムとを結びつけて捉える先行研究はあまり見られず、この視点での考察が深まっているとは言い難い。アメリカという国を理解するという意味においても、思想研究に新たな研究を付け加えるという意味でも、有意義であると考えられる。

※研究経過と結果の概要（以下の欄に 35 行以内(1500 字程度)にまとめる）

櫻田会の政治研究助成を得たこの一年間の研究活動と研究成果を振り返る。助成金を得てまず論文執筆の準備にとりかかった。その最初の成果が、次の項目で挙げている「論文1.」である。この論文の目的は、イタリアの哲学者ジャンバッティスタ・ヴィーコ (Giambattista Vico, 1668-1744) が、人々が共通に持つ判断力、社会的常識という意味でのコモン・センス概念、あるいは「コモン・センス的リアリズムの系譜」のコモン・センス概念と称し得るもの——の発展にいかなる貢献をしたかを検討し、ヴィーコの思想と雄弁術（レトリック）においてコモン・センス概念が果たしている重要な役割を明らかにすることにある。ヴィーコを取り上げた第一の理由は、ヴィーコが同時代のイギリスのシャフツベリー第三代伯爵 (Anthony Ashley Cooper Shaftesbury, the Third Earl of Shaftesbury, 1671-1713) と共に、古代ギリシア・ローマと 18 世紀に形成されたスコットランド啓蒙のコモン・センス哲学とを橋渡しし、この系譜に重要な役割を果たしたからである。ヴィーコの思想と、シャフツベリーをはじめとするアダム・スミス (Adam Smith, 1723-90)、アダム・ファーガスン (Adam Ferguson, 1723-1816)、トマス・リード (Thomas Reid, 1710-90) などのイギリスにおける道徳哲学の議論や「コモン・センス的リアリズム」との親和性についての検討を深めていく必要があると考えているからである。

第二の理由は、陪審員制度に見られるように、人々の共通の判断力としてのコモン・センスに信頼を寄せ発展してきたアメリカのリベラル・デモクラシーの思想的支柱を探る中で、アメリカ固有の哲学の潮流であるプラグマティズムに着目し、コモン・センス哲学からの影響を探る中で、プラグマティズムの思想形成がスコットランド啓蒙のコモン・センス哲学の影響の下で「コモン・センス概念のセンスス・コムニス系譜」、「コモン・センス的リアリズム」に連なるものと言い得るのかを考察するための新たな知見と展望を得ようと考えたからである。

この目的のために、ヴィーコが主張した教育および学問における雄弁術の重要性とセンスス・コムニスの役割を明らかにした結果、ヴィーコにおける直観的判断力としてのセンスス・コムニス、道徳的規範としてのセンスス・コムニス、スコットランド啓蒙の文明社会論に見られるような、文明社会論的な広がりを持つヴィーコの社会構想のヴィジョンにおいて鍵となる概念であることを確認することができた。また、シャフツベリーや、コモン・センス哲学派との思想的親和性から、その影響関係についてさらなる検討を加えていく必要性を感じた。ヴィーコのセンスス・コムニスは、イギリスにおいてモラル・センス（道徳感覚）がコモン・センスに読み替えられ、さらに、コモン・センス哲学が建国期アメリカにおいて大学において

普及し、活動や実践性をより重視するプラグマティズムが展開していくことを考える上で、欠かすことのできない重要な思想的契機となっていると思われた。

次に「論文2.」「翻訳3.」の準備を始めた。これは *Journal of Scottish Philosophy* からの招待論文で、2023 年が生誕 300 周年となるファーガソンの思想の日本への影響を検討したものである。ファーガスンは、リードとの思想的親和性からコモン・センス学派に位置づけられ得る。ここでは、日本人で初めてファーガスンについての論稿を発表したと思われる河上肇の論文を英訳し紹介した上で、それについての解説論文を英文で執筆した。ここでは、河上肇と F. A. ハイエクが異なる思想的立場から同じようにファーガソンの「意図せざる結果」の論理に着目していることに着目した。近日出版される予定であるが、有意義な紹介、研究成果となると考えている。

以上がこの一年の主な研究活動とその成果の概要である。櫻田会にこの場を借りて御礼申し上げます。

※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）

研究成果一覧

○論文

論文1.

青木裕子(2022)「ジャンバッティスタ・ヴィーコにおける^{レトリック}雄弁術とセンスス・コムニス概念—共同体の道徳的規範としてのコモン・センスとその文明社会論的意義—」、『法学新報』第129巻、第3・4号、中央大学法学会、pp. 1-23。

(Hiroko Aoki (2023) “the Idea of Sensus Communis as Conceived by Giambattista Vico and his Rhetorics: Common Sense as Moral Code of Community and its Meaning within the Civilized Society,” *The Chuo Law Review*, Vol. CXXIX, No. 3・4, Sept., 2022, the Chuo University Law Association, pp. 1-23.)

論文2.

Hiroko Aoki (2023) “Kawakami and Hayek’s Unintended Similarity in Ferguson’s “Unintended Consequences”,” *Journal of Scottish Philosophy*, Edinburgh University Press, pp. 122-25. (* to be published in 2023)

○翻訳

Hajime Kawakami (2023) translated to English by Hiroko Aoki “Ferguson’s View of Society based on Instinct,” *Journal of Scottish Philosophy*, Edinburgh University Press, pp. 119-22. (* to be published in 2023)

○その他

青木裕子(2023)「市民社会史論」、日本18世紀学会啓蒙思想の百科事典編集委員会編『啓蒙思想の百科事典』丸善出版、pp. 482-3。

〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。